

F D C 運 営 改 善 検 討 委 員 会  
意 見 書

平 成 2 8 年 1 0 月 3 日

## 目次

1	はじめに	
(1)	これまでの経緯	1
(2)	尾州産地の現状と課題	1
2	F D C事業の方向性について	
(1)	3 P事業について	2
(2)	2 A事業について	2
(3)	貸館事業について	3
(4)	F D C事業の今後のコンセプト及び主な事業内容	4
3	運営体制のあり方	7
4	むすび	7
	F D C運営改善検討委員会 委員名簿	8

## 1 はじめに

### (1) これまでの経緯

一宮地場産業ファッションデザインセンター（以下「FDC」という。）は、ファッション情報の収集提供システムの構築や商品企画力及び新商品開発力の機能を強化する必要性が求められるなか、尾張地方の繊維産業の活性化やファッション化を図るため、国の地場産業振興センター建設制度を活用して、昭和57年に設立し、昭和59年にオープンした。

FDC事業のコンセプトは、ファッショントレンド情報の収集・提供、新商品開発、人材育成が三本柱であり、地元企業の企画力強化を主目的とし、各種事業を実施してきた。

平成14年には、基金で運用されてきた地域産業育成支援事業の終了などの理由により、運営・事業全般の見直しを行うことになり、改革小委員会を設置し、検討を行った。

検討の結果、産地改革の方向性として、①顧客の創造 ②ビジネスモデルの再構築 ③経営資源の充実と効率活用を3つの視点とし、わかりやすい事業体系を構築し、3P2A（「PRODUCT / PROMOTION / PERSON」 & 「APPEAL / AMUSE」）の枠組みで事業展開することにした。

社会経済情勢がますます厳しくなるなか、平成21年には再度、改革委員会を設置し、検討した結果、3P事業としては、よりビジネスに近いところで即効性を必要とする事業、産地全体のコア機関として、「尾州」をアピールする事業に重点を置くこととした。

また、2A事業としても、地域の地場産業におけるイノベーションの促進など、連携を強化して市場拡大を図ることを目指すこととした。

FDCでは、毎年、事業内容の点検、見直しに努めてきたが、開館後32年を経過したこともあり、事業内容に加えて運営そのものの見直しが必要であると考え、今回、有識者、業界及び行政代表で構成する運営改善検討委員会を設置し、検討することとなった。

### (2) 尾州産地の現状と課題

尾州産地は、昭和初期には、各種素材の織物をはじめ、紡績・撚糸・染色・整理から縫製まで一貫生産する毛織物産地として、全国に広く知られ、昭和末期まで、製造品出荷額は拡大を続けた。

現在は、新興国から安価な製品の流入やウール需要の減少により毛織物の生産はピーク時の3割まで減少したが、製造品出荷額は現在でも全国一を誇る。

また、ファッション業界全体で推進しているJ∞QUALITYにおいて、尾州産地で企業認証を受けた企業数は全国一であり、素材産地として、全国的に重要な位置を占めている。

なお、尾州産地の中心である一宮市は、平成28年に中小企業地域資源活用促進法に基づく「ふるさと名物応援宣言」を行い、地場産業である繊維産業で培われた尾州の毛織物等繊維関連製品を地域資源として、「尾州」ブランドの発信に力を注いでいる。

尾州産地の課題としては、事業所数の減少等により、サプライチェーンを維持することが難しくなっていること、人材の確保・育成が難しくなっていることが挙げられる。

## 2 FDC事業の方向性について

### (1) 3P事業について

#### ①現状

プロダクト（ものづくり・商品開発）、パーソン（人材育成）、プロモーション（ビジネスチャンスの創出）の事業体系に沿って事業展開をしている。

ヤーンやテキスタイルの展示会や若手従業員、学生向けの人材育成事業をはじめとした事業を中心にビジネスをサポートし、尾州をアピールすることに重点を置いている。

#### ②目指すべき方向（委員会意見）

- ☆ ブランドイメージの確立により、尾州産地のイメージアップを図る。
- ☆ 尾州産地の認知度を高めるため、消費者など幅広い層にアプローチする。
- ☆ テキスタイルの製品化に向けての取り組みを支援する。
- ☆ 異業種との連携による新分野進出を支援する。

#### ③事業の方向性

- ・ エシカル（エコ、セーフティ）テキスタイルとして発信し、ブランドイメージを確立する。
- ・ 尾州産地のPR用DVDを作成し、学校等で活用することにより、産地の認知度を高めるとともに若者の尾州産地企業への就職のきっかけを作っていく。
- ・ 尾州の特長ある生地で開発した最終製品の販売を支援する。
- ・ インターネットを活用した支援策を検討する。  
(クラウドファンディング、e-コマース)

### (2) 2A事業について

#### ①現状

アピール（地域の魅力発掘）、アミューズ（住民とのふれあい）の事業体系に沿って事業展開をしている。主に、地場製品の展示・即売や地域交流のための教室事業を実施している。

## ②目指すべき方向（委員会意見）

- ☆ 尾州産地の認知度を高めるため、消費者など幅広い層にアプローチすることが必要であり、3P事業と一体的に展開する。

## ③事業の方向性

- ・体験型イベントの要素を取り入れて、生地や製品に触れてもらうことで、「尾州テキスタイル」の素晴らしさを認知してもらう。
- ・地場製品の販売は、尾州産地の生地を使用した製品を中心として実施する。  
また、教室事業は、より幅広い層が参加できるイベントとして検討する。
- ・展示会等の3P事業に市民参加の機会を増やし、地域密着型の事業を実施する。

## （3）貸館事業について

### ①現状

貸館の稼働率が低迷しており、平成27年度決算では、収益11,789千円に対して費用は26,186千円かかっており、14,397千円の赤字となっている。開設後、30年以上経っており、建物修繕や設備更新も含め、今後大幅な費用が発生するため、事業のあり方を検討する必要がある。

なお、貸館使用料の改定は、平成17年4月に実施（約5～20%値上げ）している。平成26年4月には、消費税増税分を改定している。

### ②目指すべき方向（委員会意見）

- ☆ 周辺施設の状況を把握し、貸館使用料の適正な改定を実施するとともに、PRの強化など利用向上策を策定する。

具体的には、使用料の20～30%アップで収益増を図り、PRにより稼働率（平成27年度稼働率17.4%）の10%アップを目指す。

### ③事業の方向性

- ・各自治体の広報誌などの媒体を通じて、貸館事業の周知を図る。
- ・文化教室等継続して賃貸できる対象を探す。
- ・尾州の最終製品を販売するショップに賃貸する。
- ・インキュベーション施設として企業に賃貸する。

(4) FDC事業の今後のコンセプト及び主な事業内容

	これまでのFDC	これからのFDC
コンセプト	テキスタイルメーカー中心の支援	世界一のエコ、エンカル、サステナブルなものづくりの産地を目指し、市民が誇りを持てるようなファッション産業への進化をサポートする。
枠組み	3P2A事業	3P事業（2A事業を取り込む。）
個別事業例	<p>①海外展にテキスタイルメーカーのグループとして出展。</p> <p>②研修会、セミナーは座学や工場見学を中心に実施。</p> <p>③市民向けのイベント事業を2A単独事業として実施。</p> <p>④尾州テキスタイルの開発、販売支援。</p>	<p>①テキスタイルメーカーに限らず、やる気のある企業の個社支援を行う。</p> <p>②SNS等ITを活用した尾州産地のPRを行う。</p> <p>③展示会等の3P事業に市民参加の機会を増やし、地域密着型の事業を実施する。</p> <p>④尾州テキスタイルの製品化支援を拡大する。</p>
貸館事業	<p>①既存の利用者を中心とした施設使用（一宮税務署の確定申告会場への貸館収入が約3分の1と片寄っている。）</p> <p>②平成17年4月以降、使用料金変更なし</p>	<p>①市町村など公的機関の広報を活用し、新規利用者を開拓する。</p> <p>②文化教室など長期、継続的な利用者を増やす。</p> <p>③類似施設を参考にし、使用料金の値上げを実施する。</p>

## ①コンセプト

今後の事業推進にあたっては、エコ（注1）、エシカル（注2）、あるいはサステナブル（注3）な生産体制や素材を尾州産地の目指す姿、キーワードとする。

消費者により近いところで尾州産地をアピールするために、インターネットなどのテクノロジーを活用した事業手法を積極的に採用する。

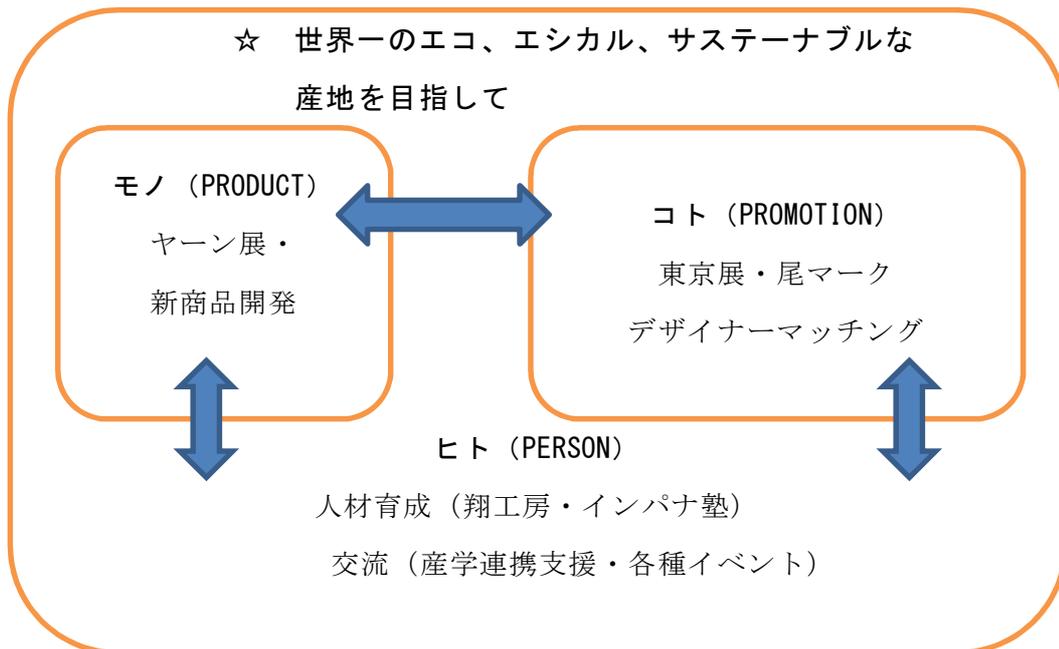
また、最近の消費動向から、単なる「モノ売り」ではなく、付加価値をつけた、ワクワク感、ドキドキ感を感じられるような体験を重視した「コト売り」への転換を目指したい。

また、「ヒト」の面では、これまでの人材育成に止まらず、産地に人を呼び込み、より尾州を知ってもらうための「幅広い交流」を意識した事業展開としたい。

（注1）地球環境に配慮した装いやアイテム

（注2）良識にかなって生産、流通していること（社会規範に配慮）

（注3）持続可能性、長く保ち続けられること



## ②主な事業内容

- ・ プロダクト事業では、「売れる」ものづくりを目指して、最終製品化を支援するための取り組みとして、販売支援なども検討する。
- ・ パーソン事業では、後継者不足の深刻な尾州産地において、若手従業員や将来の繊維産業を担うファッション系学生に対する人材育成を実施するとともに、次代を担う小中学

生に尾州産地を知ってもらう取り組みを行う。

- ・ プロモーション事業では、ビジネスチャンス創出のため、東京展などにおいて、尾州産地の優れた企業、製品を幅広く発信していく。

商標登録した「尾州マーク」を活用して、消費者に尾州製品の素晴らしさを訴求するとともに、尾州ブランドの確立を図る。

また、産学連携の取り組みを支援することで、尾州産地に学生を呼び込み、交流の拡大を図る。

#### ◇PRODUCT【ものづくり・商品開発】

- ・ ジャパン・ヤーン・フェア開催（川上企業の情報発信及び川中企業とのプラットフォーム）
- ・ 異業種との商品開発支援（技術センター及び企業との連携）
- ・ 尾州テキスタイルの最終製品化支援
  - \*最終製品化に向けたトレンド情報の収集
  - \*セレクトショップの運営支援

#### ◇PERSON【人材育成】

- ・ 尾州インパナ塾（中核的人材育成）
- ・ 翔工房（学生の生地づくり体験）
- ・ 学生産地研修会（産地についての教育・PR）
- ・ ものづくりリレー事業（若者の就職支援、技術・設備の継承）
- ・ PR用DVDの作成・配布（学校・消費者向け）

#### ◇PROMOTION【ビジネスチャンスの創出】

- ・ 東京展開催（尾州テキスタイルの発信と販路拡大）
- ・ 海外販路開拓支援
  - \*マッチングサイト参加支援（企業のIT化、グローバル化促進）
- ・ 「エシカルテキスタイル」の発信など尾州ブランドの確立（尾州の認知度向上）
- ・ 尾州マーク活用によるブランド化推進（尾州の認知度向上）
- ・ 総合展「THE尾州」（繊維や地域に対する愛着の醸成）
- ・ 川下コラボ事業
  - （テキスタイルメーカーとデザイナーのマッチング：最終製品化）
- ・ 体験型イベントの開催（尾州の認知度向上）
- ・ ジャパン・テキスタイル・コンテストの開催支援

### 3 運営体制のあり方

#### (1) 課題

FDCは、繊維産業の振興を重点事業とする一方、出捐団体である14市町村（設立時24市町村）の特産品の展示販売を実施し、繊維以外の地場産品振興への取り組みを行ってきた。

しかし、平成28年度時点で、出捐市町村のうち、半数の7市町村が運営から「一時離脱」している現状にある。

こうしたことから、FDC事業に対する出捐市町村の考え方を再確認するとともに、運営体制の見直しについても検討することにした。

市町村に対するアンケート調査の結果、「一時離脱」している市町村に復帰の意思はなく、新たに「一時離脱」を検討する市町村も存在することから、設立時の枠組みを再検討する必要がある。

#### (2) 今後の方向性

FDC事業は、主に繊維産業の支援に特化しているとはいえ、尾州地域全体の繊維産業のブランド化を目指している。しかし、地域によっては、産業に繊維産業が占める割合が低下して、FDC事業との関わりが薄くなってきていることも事実である。今後、出捐市町村の意向を十分に尊重して、協力の得られる市町村で運営体制を再構築する。

また、理事会等の実効性をより高めるために、業界主導の枠組みとし、メンバー構成についても、実務的な体制に変更する。

### 4 むすび

本意見書は、FDC事業のあり方について、平成28年7月以降、有識者、業界、関係団体ならびに行政の委員により、積極的な議論を重ねて、取りまとめたものである。

FDCは、昭和57年8月設立（昭和59年2月開館）以降、34年以上にわたり、尾州地域の地場産業の支援機関としての役割を果たしてきたが、運営方法や事業内容などについて、不断に見直して、事業運営を効果的かつ効率的なものにしていかななければならない。

特に、市町村の運営離脱により、予算規模の縮小を図らなければならないことから、これまで以上に事業を精査し、役割を終えた事業のスクラップが必要である。

今後、この意見書をもとに、関係者の意見を十分聴取し、移り変わる社会経済情勢や地場産業に対するニーズをしっかりと把握したうえで、事業と運営体制を再構築することを求める。

## F D C 運営改善検討委員会 委員名簿

高橋 正樹	日本毛織物等工業組合連合会	常務理事
原 正則	一宮商工会議所	常務理事
宮田 智司	尾州産地を考える会	会長
伊藤 核太郎	R e - T A i L	社長
岩田 真吾	尾州T A S A Iプロジェクト	委員長
内藤 裕司	愛知県産業労働部産業振興課	主幹
岡本 哲也	一宮市経済部経済振興課	課長
石坂 育己	江南市生活産業部商工観光課	課長
澤田 雄一	稲沢市経済環境部商工観光課	課長
堀 一男	羽島市産業振興部商工観光課	課長
雄長 八千恵	雄長八千恵税理士事務所	税理士